発表番号 601　「エシカル商品の開発による復興支援活動」　球磨中央高校

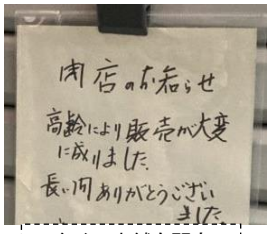
テーマ設定

エシカル商品とは、「環境、人権、地域の持続可能性」などに配慮・貢献する商品である。このエシカル商品と SDGs は深く関係し、ビジネスにおいても注目されている。

令和２年７月豪雨災害で、私たちの住む人吉球磨地域は壊滅的な被害を受けた。店舗やビルが解体され、多くの土地が更地になった。元々、事業主だった方も高齢のため、災害をきっかけに廃業され、更地のまま２年間が過ぎた。SDGs の目標 11 には「住み続けられるまちづくりを」という目標が掲げられている。私たちは SDGs の視点で「エシカル商品」を開発することで、豪雨災害の復興支援に取り組みたいと考えた。

令和２年７月豪雨災害

更地が広がり、２年が経過



多くの老舗も閉店

SDGs の目標

紙の端材を活用した「パソコンの手前に置いて使うノート」　（環境に配慮した商品）

SDGs の目標 12「つくる責任、つかう責任」と目標 15「森の豊かさも守ろう」の視点で、東紙店と協働して、紙の端材を使った「パソコンの手前に置いて使うノート」という商品を企画、販売した。GIGA スクール事業により、生徒用机の上に、パソコンを置くことになり、従来のサイズのノートが置きにくくなった。私たちが企画したノートは、パソコンの手前に置くことができ、生徒用机の限られたスペースでも、スムーズにノートをとることができる。多くの方に購入していただき、東紙店だけではなく、紙問屋の協力も得て、熊本県内全体の端材についても、廃棄させずに有効利用することができた。

パソコンの手前に置いて使うノート

規格外苺を活用した「けずり苺のアイス・スムージー」　（環境に配慮した商品）

SDGs の目標 12「つくる責任、つかう責任」の視点で、苺農家や、やまえ堂と協働して、規格外の苺を使った「けずり苺のアイス・スムージー」という商品を企画、販売した。商品に使用したラベルやカップスリーブ等の紙素材は、東紙店の端材を利用した。錦町チャレンジショップというイベントを開催し、販売したところ、準備した 100 個が２時間で完売し、お客様からも好評を得た。

けずり苺のアイス・スムージー

障がい者支援施設とコラボしたチョコレート商品「ChocoCha」　（人権に配慮した商品）

SDGs の目標８「働きがいも、経済成長も」と目標 10「人や国の不平等をなくそう」という視点で、障がい者支援施設「まどか工房」と協働して、人吉球磨産のお茶を使ったチョコレート「ChocoCha」という商品を企画、販売した。熊本で有数の大型商業施設「サクラマチ熊本」でも販売され、「超濃厚お茶チョコレート」として、お客様から好評を得た。

障がい者支援施設で製造

復興のシンボル、人吉球磨産の栗を使った「ランチパック」　（地域の持続可能性に貢献する商品）

豪雨災害から約２年が経った現在、「復興支援」と称した活動も、メディアや地域外からは注目されなくなり、「風化」が進んでいる。しかし、人吉市中心部は「更地のまま」であり、街としての将来が不安である。私たちは災害を風化させないため、SDGs の目標 11「住み続けられるまちづくりを」の視点で、「復興のシンボル」として山崎製パン株式会社と協働して、特産品の栗を使ったランチパックを企画、販売した。九州・山口地域のスーパーやコンビニ、東京の一部店舗等で約 15 万個が販売され、１個につき１円が被災地域に寄付された。

ランチパック